

17 旧毘沙門通り (きゅうびしゃもんどおり)



石原町

毘沙門寺南の東西の通りである。本堂の毘沙門天立像は行基上人の作と伝えられ、市文化財に指定されている。



18 中道 (なかみち)



古川町

町の中央を、神明社の南から東西に横切る道路である。開村当時は、村で唯一の道路で、今でも主要道として利用されている。



19 しいの木通り (しいのきどおり)



古川町・御給町

この通りは、昭和43年に開通した、五島への幹線道である。古川町から遠州浜まで、「マテパシイ」の並木道となっているので、こう呼ばれる。



20 旧堤防通り (きゅうていぼうどおり)



金折町

天竜川の旧堤防跡地を道路としたもので、河輪地区に通じている。産業道路として、また国道150号の回り道として広く利用されている。



21 老間渡船通り (おいらませんとどおり)



金折町

渡船場跡から芳川大橋地区に通じる道路である。渡船が使われていた昭和初期までは、地域の住民にとって重要な通りだった。



22 老間境 (おいらまざかい)



老間町

「老間境」は大塚町との境界の東西に結び堤防である。老間町の田畑は大塚町より約1メートル低い。そこで、水害から守るために築かれた。



23 渡船場跡 (とせんばあと)



老間町・金折町

昭和16年1月、老間橋が架けられるまで、町民の大切な交通機関として存続していた、安間川の渡船場跡である。



24 白山通り (はくさんどおり)



都盛町

白山神社前の通りで、恩地町に通じる主要道路である。16世紀末、郷士江間太郎左衛門が白山大権現を、この地に勧請した。



25 門前跡 (もんぜんあと)



都盛町

この地方の名刹だった、大蔵院の跡地である。大蔵院は明治5年、廃寺となり、入口付近に面影を残すだけである。



26 四辻村中通り (よつじむらなかどおり)



恩地町

町内の東西の道である白山宮前通りに対し、南北の主要道である。この2本の道路の交差は、「四辻」と呼ばれた。



27 白山宮前通り (はくさんみやまえどおり)



恩地町

旧宇恩地及び西恩地（現都盛町）の集落を東西に結ぶ道である。村外れには、それぞれ白山神社が建立され、今も参詣者が多い。



28 海東通り (かいとうどおり)



恩地町

旧宇海東を縦断する通りである。付近の開戸遺跡は10年ほど前に発掘され、弥生時代の集落跡が発見された。現在、付近は住宅が並ぶ。



29 芳川役場跡 (ほうがわやくばあと)



芳川町

芳川地区自治会館の建物は、昭和2年の建造で、29年7月、浜松市との合併まで、村役場として利用されていた。



30 芳川高等小学校跡 (ほうがわこうとうしょうがっこうあと)



芳川町

芳川高等小学校は、明治34年に3郡町村組合立で創立され、後年、芳川尋常小学校に併合されるまで、地域の貴重な教育機関として存在した。



31 芳川通り (ほうがわどおり)



芳川町

国道150号線の芳川町神出・大橋を結び区間に、この名を付けた。両地区は、芳川村時代からこの地域の中心として発展してきた。



32 旧五島道 (きゅうごとうみち)



芳川町

津毛利神社の跡地（現在の南陽中学）から南に、五島へ向かう道である。古くから「宮前の五島道」として人々に親しまれてきた。

